

中山間地域づくり これからの集落のあり方を考えるシンポジウム

やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業

NPO 法人市民プロデュース

753-0074 山口市中央3-6-1-2F

TEL 083-932-4919

FAX 083-932-4929

Email shiminproduce@gmail.com



中山間地域における今後の集落のあり方を考える契機とするため、「中山間地域づくり『これからの集落のあり方を考えるシンポジウム』」を開催しました。県内各地から、地域団体、行政、中間支援組織の方など、約100名の皆様にご参加いただきました。ありがとうございました！

日時：2022年10月29日(土)

10:00～12:00

場所：山口県総合保健会館

基調講演

これからの地域づくりへのヒント

櫻井 常矢 氏 高崎経済大学地域政策学部 教授

多様化・深刻化する地域の課題

- 高齢化と人口減少によって、各地では担い手不足と負担感が課題に。
- 地域づくりには地域の暮らしを支える、地域の課題を解決するという視点が重要。
- 自己完結することの限界。これまでは自分たちだけで当たり前に来ていたことが、できなくなっている。これから重要なのは、周囲との連携・つながり。

地域の共同性（まとまる力、団結力）の強さと弱さ

- 日本の地域は共同性が強いので、かえって地域外との連携が苦手な一面がある。
- 地域外の多様な主体とのつながりを求める“外にひらく力”が大切。
- これからは行政と住民の関係から、民と民の関係へ。行政の働き掛けも変えていく必要がある。

話し合いを大切にしたい地域づくり

- (歴史文化、新しい価値など) 良いことも含め、地域の課題を明らかにし、解決したり、より良くしたりする。
- “あれもこれも”はできなくなる。いったん足を止め、本当に必要なもの、大切にすべきものを本気で話し合い実現していく。攻めの地域づくりを。
- 今まで地域づくりに参加してこなかった人材が、地域に埋もれている。
- ベテランの「やってみよう」という覚悟・決意が地域社会を変える。
- そこに暮らす人々の知恵と工夫を引き出すこと。楽しく対等に語り合える場づくりを。
- 話し合いを目的化しない。例えば人財発掘の“手段”として話し合いを行う。

身近な取組から

- 自分が変わらなければ相手を変えることはできない。
- 人口減から人財増へ。一人ひとりが真剣に地域のことを考えていく、おもしろい時代。
- 「なんとなく人が育っていく」が機能しなくなっている。そのため敢えて人を育てる、取り組む、チャレンジすることが、これからの人口減少社会に求められている。



参加者の皆さんより 気づきの共有

- ・私の住む地域は、まさに「高齢化・人口減」が著しい。「人口減」から「人財増」というキーワードが非常に心に刺さりました。人口減を嘆くのではなく、地域に必要な人財を育て、増やす力が重要なのだと改めて感じました。
- ・現在の地域リーダーの、次世代の人材を育てる覚悟が必要なのがよくわかりました。
- ・「いない」「できない」ことを嘆くのではなく、あえて「やってみる」「チャレンジする」そういう姿勢が何より大事だと再認識できました。
- ・相手を変えるためには、自分が変わらなければ…本当にそう思う。今までは、行政に対して出来ていないことを指摘するような態度を取っていたが、一緒に相談しながら、協働してやるようにしたら、協力的になって来たり、どんどん前に進むようになった。
- ・地域づくりの人集めはチラシでは集まらない。手をひっぱって来る、世代をこえて話し合う、話し合いは楽しくなければ。

シンポジウム 中山間地域の「いま」を俯瞰し「未来」を描く



桑名 宏樹氏
あわいDesign 代表



田中 輝美氏
ローカルジャーナリスト
島根県立大学 准教授



吉田 知弘氏
株式会社ヨシダキカク 代表

	桑名氏	田中氏	吉田氏	櫻井氏
現在、特に力を入れていること	離島の支援。人と交わることが大好きで、場づくりが自分に合っている。自分が暮らす集落での小さな関係人口づくり。	仲間づくり。頑張っている人は孤独。それでも頑張れるのは仲間がいるから。前に進める、前向きになれる仲間づくりをやっている。	話を聞くこと。思いを引き出す。ポテンシャルや、その人・その地域らしさを引き出して、どうやったらできるかを考える。	地域リーダーとは孤独なもの。リーダーとして学ぶ機会は特になので、どう立ち居振る舞ったら良いか分からないはず。そこにどう寄り添うか。例えば継承していく、学び合う機会を。
中山間地域に誰の・どんなはたらきが必要か	ヨソ者のはたらきかけ。「決める会議」をしないことがミソ。新型コロナで“きっかけ”がない今、外からの立場で「なぜそう思うんですか？」と聞くことで、気づきが生まれる。	ここに来た「あなた」。思いを持つ人はいるが、つながっていない。帰って今日の話をするだけで変わるかも。◆関係人口（観光ではないが定住しない、一緒に地域をつくる新しい仲間）。ヨソ者の驚きが、日常の中の発見につながる。	立場を超えてつながる、話し合う。思いを共有する。幹を決めてから枝を延ばす。そこに地域おこし協力隊の導入を。◆行政職員の力は大きい。思いを持った行政職員を掘り起こす。	昔からのやり方にこだわるリーダーがいるが、かつてのリーダーのように振舞っても人がついてこない。強いリーダーがみんなを引っ張るスタイルではなくなっている。お互いがフラットに「一緒に考えましょう」という姿勢が求められる。捉え直しが必要。◆外と交流して地域を見直すことが大事。そのためには、まずは地域内交流から。本音を聞く、振り返る、足元を見る。見えていないだけで、もともと地域にはチカラが潜んでいる。
中山間地域の「ありたい姿」と欠かせない要素	関係人口をつくる。刺激をつくる。◆里山を残す。人間らしい生き方、多面的な機能。守っていく仕組みづくりを。◆インフラ。テクノロジーの活用イメージを。	みんなの役割がある地域。一人では生きていけないし、「みんな強くなれ」ではない。強い・弱いに関係なく、ここにいてよかったと思える、役割がある地域。	誰もが、自分で選んだ場所で幸せに暮らしていること。そのために、自分のことを見直す・問い直す。	
最後にひとこと	自分だけでなんとかしようとしな、挨拶から始まるような、きっかけづくり。気づきや小さなできることを見つけると、アクションが起こる。若い人が育つ環境を。	面白い時代だと思う。人口が減ることが課題ではない。人口減少と暮らし方との齟齬が課題。みんなが役割を持てる時代を、萎縮や「大変だ」ではなく、楽しく。	できることからやってみよう。なかなか動けない人もみんなで一步。今までと違う世代や地域からひとりで呼んでみて、小さな成功体験をつくる。	それぞれの思いはあるが、つながっていない。補助金で地域の活動を促す行政の手法はもう効かない。それぞれのやり方や役割を見直していく、お互いが変わっていくことが協働。

